



混合水栓柱 *Lesena*

- (品名) (品番)
- 混合水栓柱レゼーナ900 ————— G12KS9
 - 混合水栓柱レゼーナ1200 ————— G12KS12
 - 混合水栓柱レゼーナ900(切替栓付き) — G12KS9K
 - 混合水栓柱レゼーナ1200(切替栓付き) — G12KS12K

施工・取扱説明書

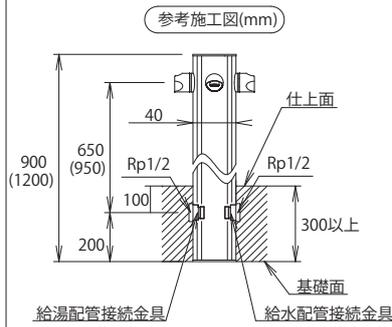
ご使用前にこの説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用下さい。

- お客様へ
お読みになった後は、お使いになる方がいつでも読める所に必ず保管して下さい。
- 工事店様へ
施工後、この説明書をお客様へお渡し下さい。

施工について 施工手順

① 設置場所の確認

給水・給湯配管の位置を確認する。



⚠ 注意

- 水栓柱は住宅の基礎面上に設置して下さい。
- 基礎がない場合は砂利石、PC板などの十分強固な上に設置して下さい。
- 給水・給湯配管は通常、右側が給水、左側が給湯です。逆配管の場合はハンドルの赤と青の左右を入れ替えて下さい。

② 水栓柱の取付け

水栓柱を所定の位置に立てかけ、給水・給湯配管を接続する。

⚠ 注意

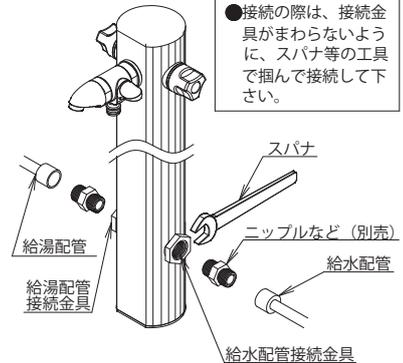
- (付属の逆止弁について)
- 水側と湯側のメンテナンス可能な配管内に必ず取付けて下さい。
 - 正しい通水方向で取付けて下さい。



- 給水・給湯配管接続金具に直接取付けしないで下さい。抜けるおそれがあります。

⚠ 注意

- 取付け前に必ず通水し、配管内のゴミを洗い流して下さい。
- 接続の際は、接続金具がまわらないように、スパナ等の工具で掴んで接続して下さい。



③ 通水点検

蛇口の施工後に、水が流れるか、止水できているかどうかを点検します。

- このとき、確実にフラッシングを行ってください。
- フラッシング: 蛇口を全開し、約30~60秒間勢よく通水を行ってください。

施工後数日~数ヶ月で、『水がでない、止まらない、ポタ漏れする』等のお問い合わせが頻発しております。その一番の原因は、フラッシング不足により『蛇口の施工時に発生したゴミ等が止水部に詰まる為』です。

フラッシングを行った後は、蛇口止水部のゴミをピンセット等を用いて、丁寧に取り除いてください。

ご使用について ご使用に関する安全上のご注意

ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果(傷害・物損)に結び付く可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守って下さい。

⚠ 警告

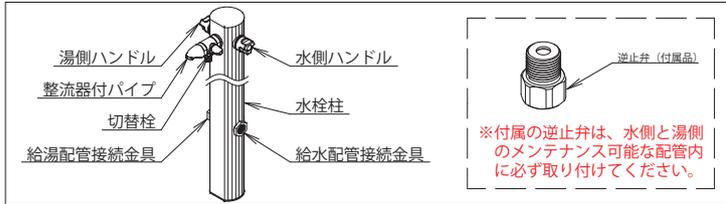
- 小さいお子様だけのご使用は、避けて下さい。やけど・けがをするおそれがあります。



⚠ 注意

- 使い始めの水がにおう場合は、しばらく流してからお使い下さい。しばらく使われないと、水栓内の水は消毒用の塩素が少なくなり、におうことがあります。
- 製品に強い力や衝撃を与えないで下さい。故障や水漏れの原因になります。
- 分解は、保守・点検の決められた項目以外はしないで下さい。器具が破損し、やけど・けがをしたり、水漏れで家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
- 給湯温度は85℃より高温で使用しないで下さい。85℃より高温でご使用になると、器具の寿命が短くなり、水栓が破損し、水漏れのため家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
- 吐水口先端に重いものを下げたり、力をかけて回したりしないで下さい。磨耗、変形などでパッキンの寿命が短くなり、吐水時に吐水口部から微量の水がにじみ出るおそれがあります。
- 解氷機やアースを水栓に通電しないで下さい。水栓が発熱で破損し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

本製品について 各部の名称



※付属の逆止弁は、水側と湯側のメンテナンス可能な配管内に必ず取り付けてください。

施工について 施工に関する安全上のご注意

- ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果(傷害・物損)に結びつく可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守って下さい。
- 施工完了後、試験運転を行い異常がない事を確認すると共に、工事店様は説明書に沿ってお客様に使用方法、お手入れの仕方を説明して下さい。
- 施工は、水道法、その他の関係する法規などに従って行って下さい。

用語および記号の説明

- 警告** 「取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険な状態が生じる事が想定されます。」
- 注意** 「取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物的損害が発生する危険な状態が生じる事が想定されます。」
- ⚠ 「注意下さい!」(上記の「注意」と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項を守って下さい。)
- ⊘ 「してはいけません!」(一般的な禁止記号です。)
- ⚡ 「分解してはいけません!」
- 🚫 「指示した場所に触れてはいけません!」
- 📢 「指示通りに下さい!」(一般的な行動指示記号です。)

⚠ 注意

- 散水用です。飲用などの用途には使用できません。
- 修理技術者以外の方は、水栓本体内部を分解しないで下さい。故障や水漏れの原因になります。
- 製品に強い力や衝撃を与えないで下さい。故障や水漏れの原因になります。
- 湯水を逆に配管しないで下さい。水を出そうとしても湯が出て、やけどをする事があります。逆配管の場合はハンドルの赤と青の左右を入れ替えて下さい。
- 同梱の部品以外は使用しないで下さい。故障や水漏れの原因になります。
- 凍結が予想される地域には、取付けしないで下さい。凍結破損で水漏れし、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

施工について 適切な使用条件

[水圧について]

給水・給湯圧力	最低必要水圧 (流動時)	最高使用水圧 (静止時)
		0.05MPa

- 給水・給湯圧力が0.75MPaを超える場合は、市販の減圧弁などで0.2~0.3MPa程度に減圧して下さい。
- 給水圧力は給湯圧力より必ず高くするか、同圧になるようにして下さい。
- 給湯圧力は必ず0.05MPa以上にして下さい。

[給湯機について]

使用最高温度	85℃以下
--------	-------

- 給湯機からの給湯管は抵抗を少なくするために最短距離で配管し、配管には必ず保温材を巻いて下さい。
- 誤操作などによるやけど防止のため、42~60℃給湯をおすすめします。
- 給湯に蒸気を使用しないで下さい。

[水質・用途について]

使用可能水質	水道水及び飲用可能な井戸水
用途	一般住宅用

△注意

湯を使用する時は水側ハンドルから開けて下さい。
その後、徐々に湯側ハンドルを開き、温度および吐水量を調節して下さい。
湯側ハンドルを先に開くと高温の湯が吐水し、やけどをするおそれがあります。

湯を止める時は、必ず湯側のハンドルから閉めて下さい。
次に使用する際、水栓内に残っている高温の湯が出て、やけどをするおそれがあります。

●湯をお使いの後は、しばらく水を流してから止水して下さい。
次に使用する際、水栓内に残っている高温の湯が出て、やけどをするおそれがあります。

●夏期や日中（昼間）には器具内の水が高温になり、水側からお湯が出てくる場合があります。しばらく水を流して下さい。
やけどをするおそれがあります。

ハンドルは、ゆっくり回して下さい。
ハンドルを急に閉めると、配管に衝撃が加わり、水漏れで家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

ご使用について 吐水・止水・温度調節

△注意

●湯を使用する時は水側ハンドルを開いてから徐々に湯側ハンドルを開き、温度および吐水量を調節して下さい。
湯側ハンドルを先に開くと高温の湯が吐水し、やけどをするおそれがあります。

吐水方向の切替
混合水栓柱レゼーナ900(切替栓付き)―G12KS9K と混合水栓柱レゼーナ1200(切替栓付き)―G12KS12K では、付属のつまみを回すことで吐水方向の切替ができます。ハンドルを横にすると先端の吐水口から吐水し、縦にすると下端のホースニップルから吐水します。切替栓が付属していないタイプでは、吐水方向の切替はできません。

使用后
必ず湯側ハンドルから閉め、しばらく水を流して下さい。
器具内に高温の湯が滞留し、次に使用する際やけどをするおそれがあります。

高温の湯が出ないときは？

湯側ハンドルをまわしても高温の湯が出ないときは、給湯機（給湯リモコンなど）の給湯温度を42～60℃に設定した後、水栓側の湯側ハンドルをまわして下さい。

高温の湯を使用した後は、給湯リモコンとハンドルで適温に戻してしばらく水を流して下さい。

(注) 水温の高い夏場で吐水量を少なくして使うと瞬間式給湯機の場合、着火しないことがあります。
この場合には、水栓側のハンドルを全開に（吐水量を多く）する
か、給湯機の温度設定を下げして下さい。

ご使用について 凍結予防

凍結が予想される地域では、必ず水抜栓を設置してください。
凍結破損で水漏れし、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

※凍結による破損はお取り付けの地域に関わらず、保証期間内でも有料交換となります。
一度でも凍結すると破損し水漏れが発生するため、確実に凍結予防策を講じてください。

※水抜栓を設置する際は、逆止弁の取付位置に注意し、水抜き動作が正常に行える位置に取り付けてください。

水抜栓を設置していない現場で、凍結の恐れがある場合は、次の処置によって凍結を予防できる場合があります。

●蛇口より少量の水を出してください。水を流し続けることで、凍結を予防できる場合があります。(目安として1分間に牛乳ビン1本程度)

●止水栓(元栓)を開め、水栓柱の蛇口をすべて開放してください。
水栓柱内部の水が半分ほど抜け、凍結を予防できる場合があります。

日頃のお手入れ 汚れの拭き取り

製品についた汚れを放置しておく、汚れが落ちにくくなる場合があります。
快適にお使いいただくために、日頃のお手入れをおすすめします。

●柔らかい布で水拭きして、よくしぼった布で汚れを拭き取って下さい。
●汚れが目立つときは、中性洗剤を柔らかい布にふくませて拭き取った後水拭きして、よくしぼった布で汚れを拭き取って下さい。

△注意

次のものは使用しないで下さい。変色や傷みのおそれがあります。

●酸性・アルカリ性および塩素系の洗剤類
※特に酸性洗剤はメッキを侵します。
●ベンジン・シンナー・ラッカー・アルコールなどの溶剤や油類
●クレンザーなどの粒子の粗い洗剤 ●ナイロンたわしなど

●洗剤・薬品が本体に付着した場合は、すぐにきれいに拭き取って下さい。
本体の割れや変色変質の原因となります。

定期的な点検 可動部分の点検

可動部分が固くて動きが悪い場合は、水あか固着や潤滑剤切れです。放置すると故障の原因になりますので、工事店様に修理をご依頼ください。吐水口の点検については下記を参照下さい。

日頃から、ときどき吐水口を回して下さい。(月1回を目安)

吐水口を長期間回さずに使用すると水あかなどが付着し、無理に回そうとすると、水漏れ・異音の発生の原因になります。

吐水口が回らなくなった場合は、工事店様に修理をご依頼下さい。

定期的な点検 配管周りの水漏れ・器具のガタツキ

定期的に、配管周りの水漏れがないか確認して下さい。(年2回を目安)
定期的に、器具のガタツキがないか確認して下さい。(年2回を目安)
劣化・磨耗などで部品が破損し、やけど・けがをしたり、水漏れして家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

確認 → 水漏れなし

水漏れを確認した場合は、配管中の元栓を閉めて下さい。

こんなときは 故障?その前に

現象	点検項目	処置
流量が少ない	止水栓は開いていますか。	止水栓で流量を調節する。
	ゴミづまりはありませんか。	ミニバルブのゴミかみがあれば取除き、傷があれば交換する。
高温しかでない	水側の止水栓は開いていますか。	止水栓で流量を調節する。
低温しかでない	給湯機から湯がきていますか。	給湯機の設定温度・作動を確認する。
	湯側の止水栓は開いていますか。	止水栓で流量を調節する。
温度調節がうまくできない	湯側・水側の止水栓は開いていますか。	止水栓で流量を調節する。
	給湯機から湯がきていますか。	給湯機の設定温度・作動を確認する。
水はねが気になる	ゴミづまりはありませんか。	ミニバルブのゴミかみがあれば取除き、傷があれば交換する。
		ハンドルで流量を調節する。

以上の点検を実施されても、不具合がなくなる場合はお手数ですがお買上げの販売店（工事店）に修理をご依頼下さい。

こんなときは 本製品の構造

器具の構造を表したイラストです。構造をご理解いただくのにご使用下さい。

湯側ハンドル
切替栓
Uパッキン
整流器付パイプ

補修用性能部品
ノンライジング ミニバルブ (逆回転) NR003-L

補修用性能部品
ノンライジング ミニバルブ NR003

水側ハンドル

△注意

●逆止弁は定期的に交換して下さい。
●逆止弁交換の際は、取付方向に注意して下さい。

補修用性能部品
逆止弁 SOK134

通水方向 →